

少数激戦で落選したのは新人二人。現職十九人と元職一人の厚い壁にはね返された。

特に共産は袴田富治さんが落選し、一議席にとどまった。最近の選挙で、各地で党勢を伸ばし、「どこか



楽観的な雰囲気があった」(袴田さん)。

逆に下馬評の低さを覆したのが、前回選挙時の共産から無所属に転じた柴田安彦さん。市政に批判的な数少ない論客として、政党の枠を超えて一定の支持を集

共産 1議席にとどまる

めた。

投票率は過去最低を更新する56・32%。選管は「静かな選挙。盛り上がりに欠けた面はある」。二人の新人を含め候補者は五十代、六十代が大半。新鮮さはなく、若者の選挙離れを食い止められなかった。

現職十九人の当選で、最大会派「蒲郡自由クラブ」が主導権を握る議会の構図は変わらない。一方、秋の市長選をにらみ、「これから動きが本格化する」(ベテラン議員)との観測も。出馬表明している稲葉正吉市長以外の動きが表面化すれば、議会の勢力図も変わる可能性がある。

(木村尚公)